

市民活動に関する市民アンケート 調査結果報告書

1. アンケート調査用紙発送数 1,000 件

18 歳以上の熊本市民 1,000 人(無作為抽出)に市民活動に関する意識調査を実施。

2. アンケート回収件数 387 件 (回収率 38.7%)

3. アンケート調査集計結果

- ・ 集計結果 P 1 ～ P 5

4. アンケート調査用紙

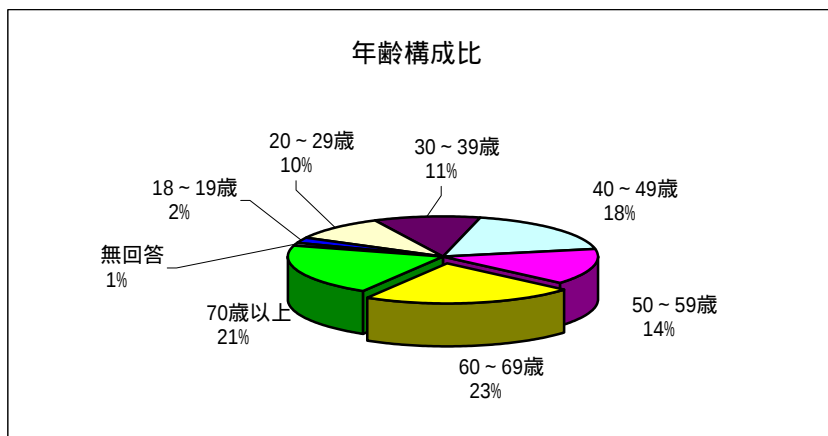
- ・ アンケートの発送日 平成 2 1 年 9 月 1 5 日
- ・ 回答の締め切り日 平成 2 1 年 9 月 3 0 日

アンケート回答の目次

（問１） あなたの満年齢は？	・・・ P 1
（問２） あなたの性別は？	・・・ P 1
（問３） あなたは、これまでに市民活動を経験したことがありますか。	・・・ P 2
（問４） あなたは、今後、市民活動が参加しやすいものになるために、どのようなことが特に重要だと思いますか。	・・・ P 2
（問５） あなたは、市民活動への行政のかかわり方について、どのようにお考えですか。	・・・ P 3
（問６） あなたは、今後、市民活動が活性化されるため、行政はどのような支援を行ったらよいと思いますか。（２つまで選択可）	・・・ P 3
（問７） もし、熊本市が「市民活動」を資金的に支援するため、企業や市民に寄附を募って新たに基金を創設する場合、あなたならいくら程度の寄附が可能ですか。	・・・ P 4
市民活動支援に関してのご意見等まとめ	・・・ P 5

(問1) あなたの満年齢は？

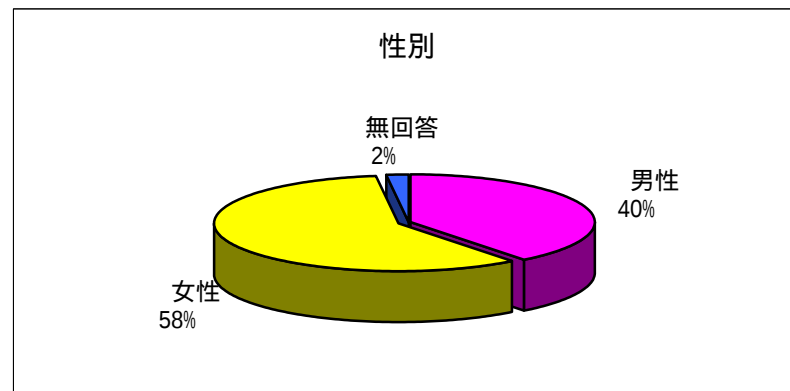
18～19歳	9
20～29歳	38
30～39歳	43
40～49歳	70
50～59歳	56
60～69歳	86
70歳以上	81
無回答	4
計	387



「60～69歳」の割合(23%)が最も多く、全体を大きく見ると、若年層ほど割合が小さい傾向となっている。

(問2) あなたの性別は？

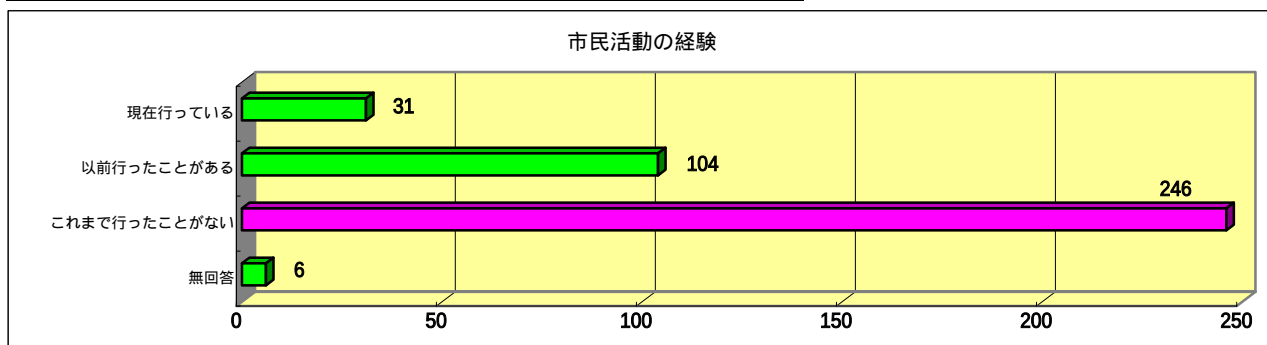
男性	153
女性	227
無回答	7
計	387



「女性」の割合(58%)が「男性」の割合(40%)を大きく上回っている。

(問3) あなたは、これまでに市民活動を経験したことがありますか。
次の中から該当するものを1つ選んでください。

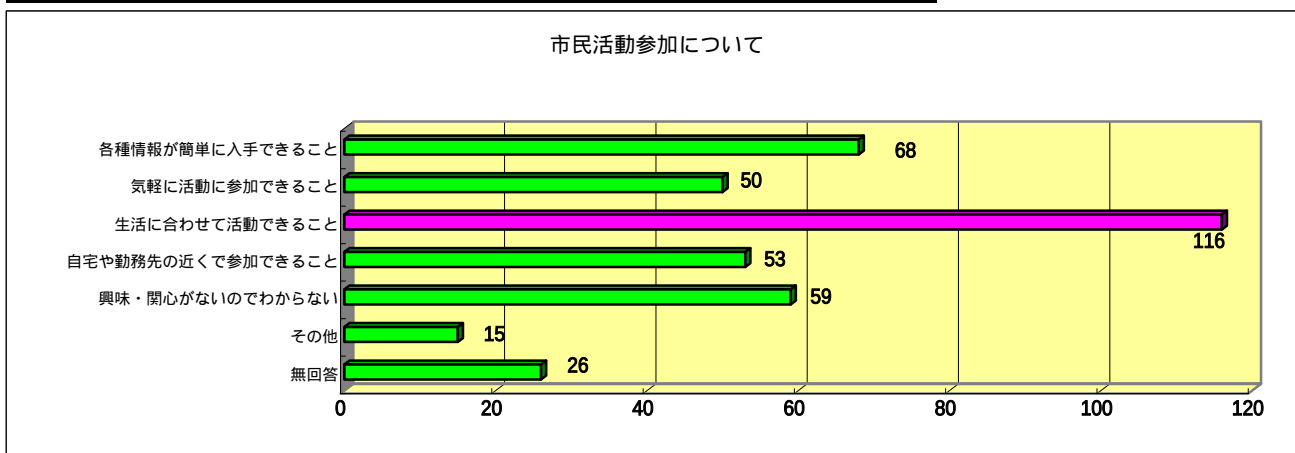
現在行っている	31
現在は行っていないが、以前行ったことがある	104
これまで行ったことがない	246
無回答	6
計	387



「これまで行ったことがない。」という回答が最も多く、全体の3分の2程度を占めている。

(問4) あなたは、今後、市民活動が参加しやすいものになるために、どのようなことが特に重要だと思いますか。
該当するものを1つ選んでください。

市民活動の各種情報が簡単に入手できること	68
気軽に市民活動団体(グループ)の活動に参加できること	50
時間等の制約が緩やかで自分の生活に合わせて活動できること	116
自宅や勤務先の近くで参加できること	53
興味・関心がないのでわからない	59
その他	15
無回答	26
計	387



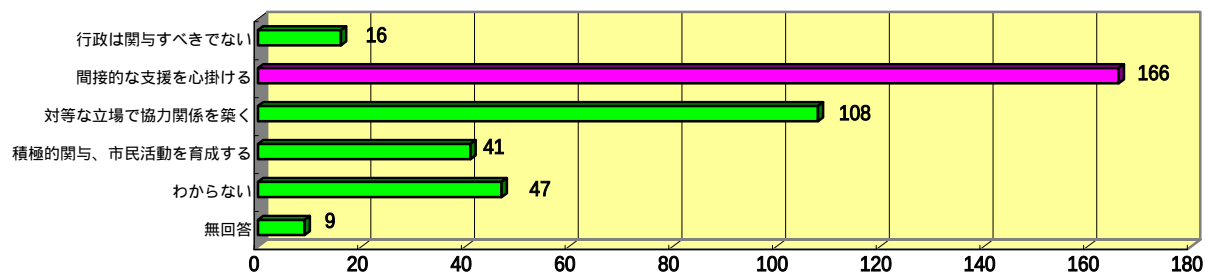
「生活に合わせて活動ができること」という回答が最も多かった。次いで「各種情報が簡単に入手できること」が多かった。

(問5) あなたは、市民活動への行政のかかわり方について、どのようにお考えですか。

次の中から該当するものを1つ選んでください。

市民活動は自主的・自発的に行う活動なので、行政は関与すべきでない	16
行政は市民活動の自主性を尊重しながら、間接的な支援を心掛ける	166
行政は対等な立場で市民活動に関与し、協力し合える関係を築く	108
行政は市民活動に積極的に関与し、市民活動を育成する	41
わからない	47
無回答	9
計	387

行政のかかわり方



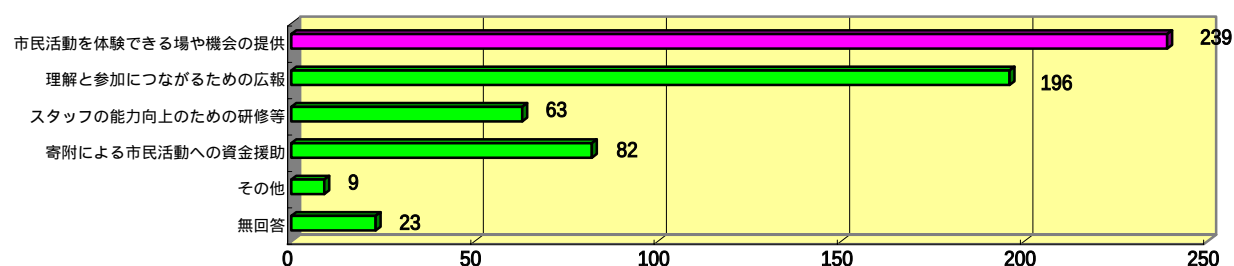
「間接的な支援を心掛ける」が最も多く、次に多かったのが「対等な立場で協力関係を築く」であった。逆に、回答が少なかったものは、「行政は関与すべきではない」であった。

(問6) あなたは、今後、市民活動が活性化されるため、行政はどのような支援を行ったらよいと思いますか。

次の中から該当するものを2つまで選んでください。

市民が気軽に市民活動を体験できる場や機会の提供	239
市民活動への理解と参加につながるための広報	196
市民活動スタッフの能力向上のための研修等	63
市民や企業の寄附による市民活動への資金援助	82
その他	9
無回答	23
計	612

行政の支援について

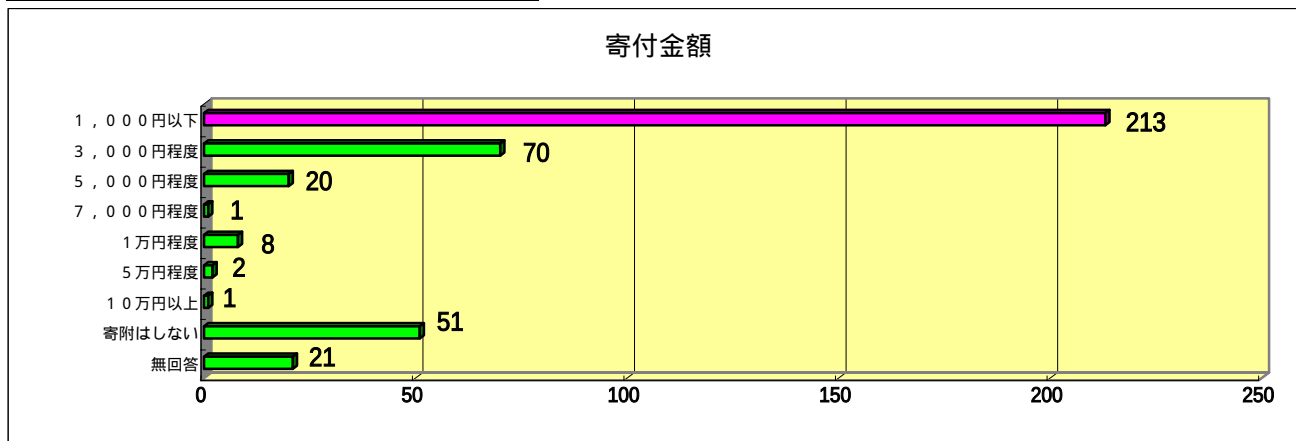


「市民活動を体験できる場や機会の提供」という回答が最も多く、次に多かった「市民活動への理解と参加につながるための広報」と合わせると、全体の約7割を占めている。

(問7)もし、熊本市が「市民活動」を資金的に支援するため、企業や市民に寄附を募って新たに基金を創設する場合、あなたならいくら程度の寄附が可能ですか。次の中から該当するものを1つ選んでください。

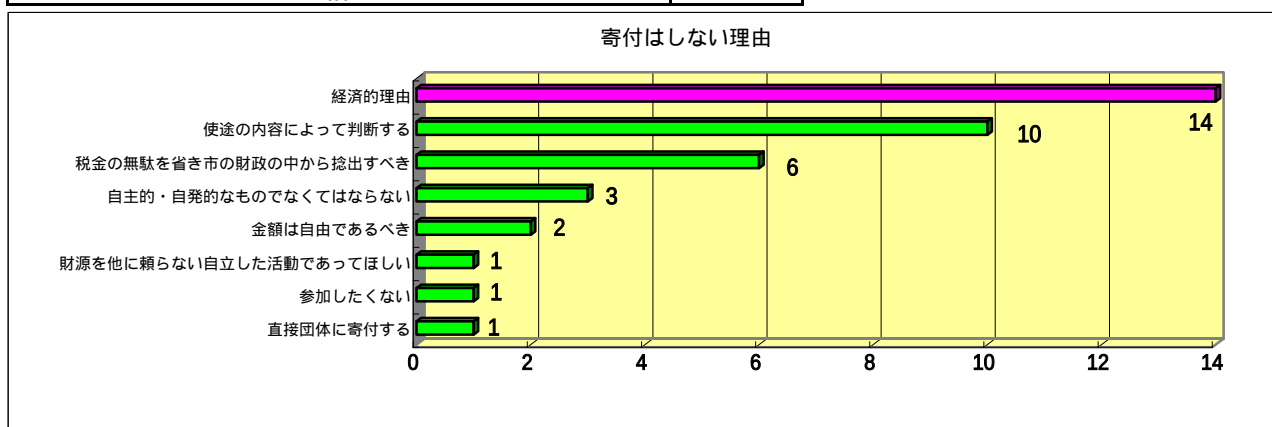
1,000円以下	213
3,000円程度	70
5,000円程度	20
7,000円程度	1
1万円程度	8
5万円程度	2
10万円以上	1
寄附はしない	51
無回答	21
計	387

「1,000円以下」という回答が最も多く、全体の半数を超える結果となった。



問7 - 寄附はしない理由

経済的理由	14
使途の内容によって判断する	10
税金の無駄を省き市の財政の中から捻出すべき	6
自主的・自発的なものでなくてはならない	3
金額は自由であるべき	2
財源を他に頼らない自立した活動であってほしい	1
参加したくない	1
直接団体に寄付する	1
計	38



「経済的理由」が最も多く、次に多かったのが「使途の内容によって判断する」であった。

市民活動支援に関してのご意見等まとめ

【広報・情報面について】

市民活動の情報や活動内容がわからないのが多い。紹介等広報の充実により関心を持ち参加も促せる。
市政だよりやHPでの広報はなかなか伝わらない。新聞やTVを使った活動支援をもっと積極的に行政が行う。
市民活動は情報が少なく閉鎖的に見える。もっと明るく開放的で気軽に参加できるようなものでありたい。

熊本市の市民活動に関して全くどういうものがあり活動されているのかわからない。一市民としてなんらかの形で活動に参加したりボランティア等に参加したほうがいいと思うのだが。以前FLCで他県の取組の様子を見たが自分ができる活動を行うそれがポイント制になってポイントを貯めると将来自分が支援してもらえる、という活動もあった。こういう形の支援活動もユニークで、あっていいのではと思った。

携帯サイトなど、若年層でも身近で気軽に情報を入手できるようになれば良いと思う。

何かしたいけど何をしたらよいかわからない、どこで何があるのかわからない・・・が現状。行政と市民ではなくみんな市民ですから身の回りの環境がよくなって文句言う人はいないでしょう。ただやらない人もいますが、取組み易い事とか出来る時間とか内容がわかれば些細な事からやってみよう・・・という人が増えるのでは？

私自身そんなに市民活動と聞いてピンときませんが色々情報を紹介していただけたら活動に参加してみたい。

寄付は内容次第。その為には正確・公正な情報提供が必要。そこに行政の役割があると思う。行政は公正であるべし。多くの情報を提供し市民の判断を仰ぐことが大事と思う。

【活動面について】

活動できる範囲ですればいい。自主的・自発的な活動参加に基金を創設する必要はない。

多くの市民参加と理解の下で活動が活発になったらと思う。

活動支援は必要ないと思う。従来通り自主・自発的に市民活動をすべき。企業や市民の寄付不要。

何をもって市民活動と言わせているのか？自治会・ボランティア・NPOそれぞれ一体化するのは少し違うと思う。

市民活動の中にはすごく良い活動をしている人もいる為そのような活動が軌道にのるまでは行政がある程度支援してもよいのではないかと思う。

市民活動＝資金援助はすべきでない。市民の自主性ボランティアでいい。機会があれば市民活動に参加したい。

防犯パトロールや旗振りしてもジュニア本も出ることがなかった。協力をした人には何かあれば頑張る気持ちが出る。

【寄付・支援面について】

支援は市・県・国が行うべき。税の支援は国民の参加となる。

行政は金銭面の支援を考えているアンケートにしか思えない。基金創立の場合一律で分配されないようお願いしたい。

ボランティア時にかかる費用は自分で出すのが『当たり前精神』。

自分としてはあくまで『奉仕の精神』なので金銭支援を受けると本来のボランティア精神から離れる。

現代では寄付は難しい。

市民活動における資金運用についてきちんとした会計報告をなされるべきである。

高齢化がすすむなか行政もある程度資金援助が必要。

市民に有益な活動には積極的に資金援助や協働の活動を行って欲しい。

活動には資金が必要だがあまりにもそこを考えると市民活動の意図自体が違ってくると思う。

資金の裏づけが無いと、思うような活動は出来ない。積極的な参加を求めるならばその好意を無駄にしない。

国の予算同様に市の予算にもムダがあると思うので見直せば捻出できるのでは。

不況の中市民活動は時間と経済的に余裕のある方が多く参加しているように思える。自分自身いっぱいいっぱい。

企業による市民活動への寄付は援助を募り市民活動の和を広げたい。

支援団体が不明。するなら直接。

資金的支援するだけの価値のある市民活動グループなのか見極めて援助してほしい。趣味の延長の活動ではなく。

視覚障害児者の自立活動など行政より先に手がけ多々影響を持つ所もあり、資金援助など必要だと思います。

【その他】

市民活動が活発な熊本市の実現に向けて頑張ってもらいたい。

参加した事、結果として考え出された案・考え方を反映して実行していただきたい。

環境面等考えてゴミを減らす事とかもっと小さな事に行政の指導が必要では。

行政はもっと他のことに目を向けるべき。人気取りの行政にはうんざり。

元気になったら市民活動にはげみたいと思います。本当に残念です。

皆の幸せの為頑張ってください。自然体で協力出来る場をお願いします。

市役所OB・現職で活動に参加されている方と全く参加されない方が分かれている。職員への働きかけや現職の場合積極的参加者は昇級等考えるべきではないか？近所に市職員で、夫婦で何事にも参加いただき心強く大変助かっています。



**平成 22 年度「熊本市第 6 次総合計画」市民アンケート調査
報 告 書**

平成 23 年 3 月

熊 本 市

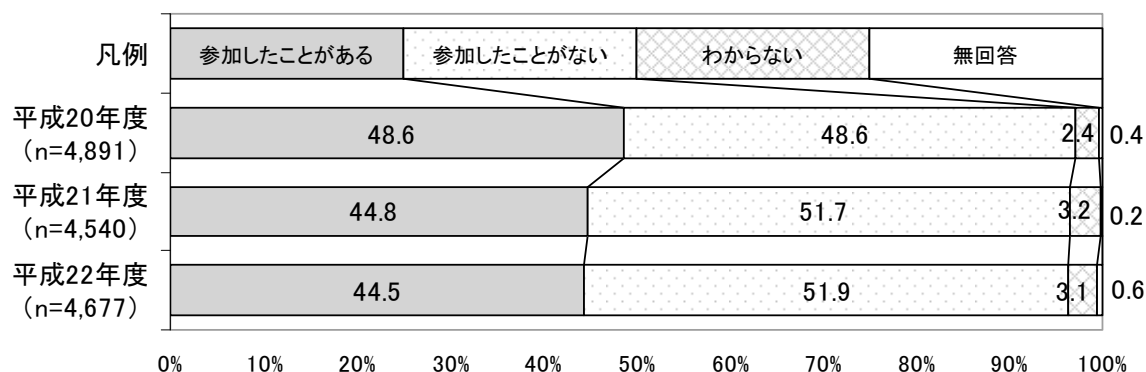
＜過去1年間に地域活動に参加した市民の割合＞

問 14 あなたは、過去1年間に地域活動に参加しましたか。

◆全体結果

過去1年間に地域活動に参加したかについては、「参加したことがある」は 44.5%。
「参加したことがない」は 51.9%となっている。

前回調査と比較すると、「参加したことがある」は 44.8%から 0.3 ポイント減少している。
一方、「参加したことがない」は 51.7%から 0.2 ポイント増加している。



◇性別

性別でみると、「参加したことがある」は、男性が 44.7%、女性が 44.4%で、差はみられない。

◇年代別

年代別でみると、「参加したことがある」は、70～74 歳が 54.8%で最も高く、次いで 65～69 歳(54.7%)、40～44 歳(49.6%)となっている。

◇家族構成別

家族構成別でみると、「参加したことがある」は、三世帯同居が 55.3%で最も高く、次いで夫婦二人住まい(47.4%)、夫婦に子どものみ(47.0%)となっている。

◇熊本市居住年数別

熊本市居住年数別でみると、「参加したことがある」は、30 年以上が 48.6%で最も高く、次いで 10～20 年未満(42.1%)、20～30 年未満(40.5%)となっている。

◇職業別

職業別でみると、「参加したことがある」は、農林漁業が 74.6%で最も高く、次いで自営業(50.5%)、公務員(50.4%)となっている。

◇地区別

地区別でみると、「参加したことがある」は、北区 54.9%、西区 49.3%、南区 48.9%、東区 42.0%、中央区 33.7%となっている。

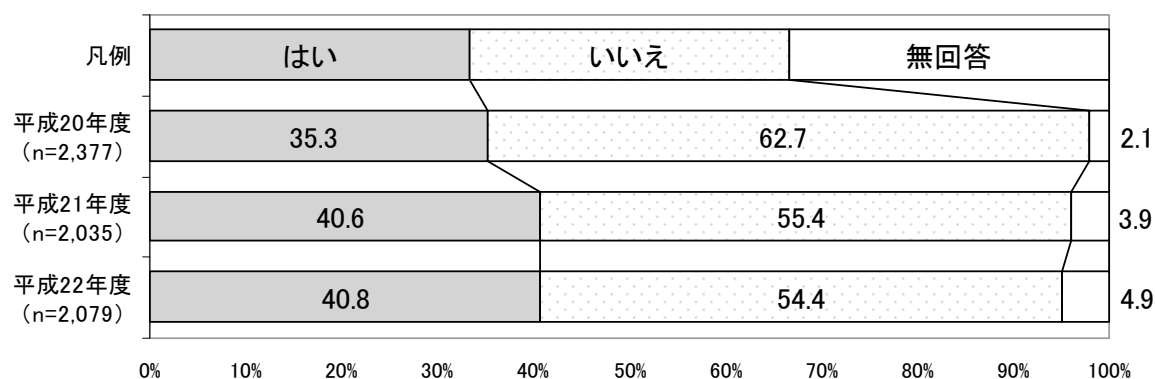
＜過去1年間に地域活動にスタッフとして関わった市民の割合＞

問 14-1 あなたは、その活動にスタッフとして関わりましたか。

◆全体結果

過去一年間に地域活動に「参加したことがある」と回答した2,079人に、地域活動にスタッフとして関わったかについて聞いた結果、「はい」が40.8%。「いいえ」は54.4%。

前回調査と比較すると、「はい」は40.6%から0.2ポイント増加している。一方、「いいえ」は55.4%から1.0ポイント減少している。



◇性別

性別でみると、「はい」は、男性が47.5%、女性が36.3%で、男性が高くなっている。

◇年代別

年代別でみると、「はい」は、65～69歳が49.8%で最も高く、次いで70～74歳(49.5%)、75～79歳(49.0%)となっている。

◇家族構成別

家族構成別でみると、「はい」は、三世帯同居が46.8%で最も高く、次いで夫婦二人住まい(43.7%)、その他(43.5%)となっている。

◇熊本市居住年数別

熊本市居住年数別でみると、「はい」は、30年以上が44.3%で最も高く、次いで10～20年未満(40.7%)、20～30年未満(36.8%)となっている。

◇職業別

職業別でみると、「はい」は、自営業が54.6%で最も高く、次いで農林漁業(49.4%)、無職(42.6%)となっている。

◇地区別

地区別でみると、「はい」は、西区46.3%、南区43.0%、東区40.8%、北区38.4%、中央区36.9%となっている。

3. 基本計画の推進に向けて

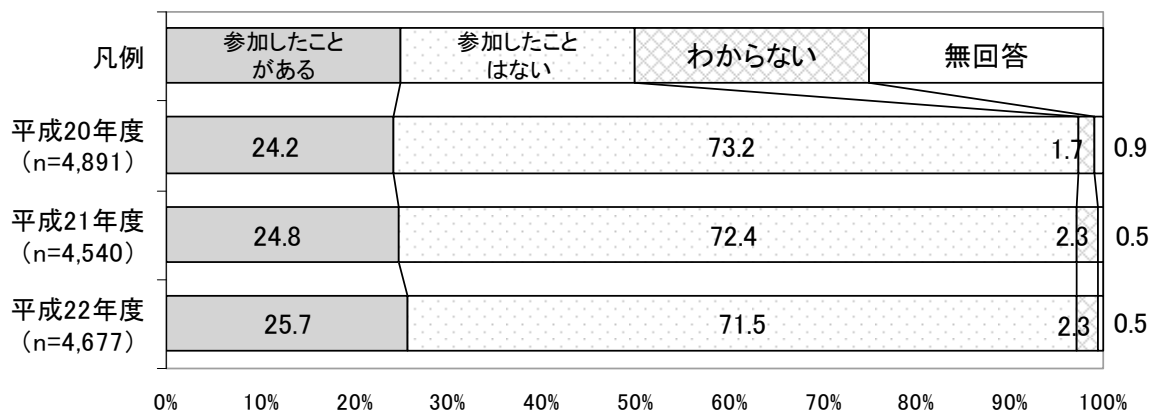
＜市民公益活動に参加している市民の割合＞

問 49 あなたは、過去1年間にボランティア等の活動に参加したことがありますか。

◆全体結果

過去1年間にボランティア等の活動に参加したかについては、「参加したことがある」は 25.7%、「参加したことはない」は 71.5%。

前回調査と比較すると、「参加したことがある」は 24.8%から 0.9 ポイント増加している。一方、「参加したことはない」は 72.4%から 0.9 ポイント減少している。



◇性別

性別でみると、「参加したことがある」は、男性 26.3%、女性 25.5%で、性別による差はみられない。

◇年代別

年代別でみると、「参加したことがある」は、65～69 歳が 34.3%で最も高く、次いで 70～74 歳 (33.6%)、75～79 歳 (33.2%)となっている。

◇家族構成別

家族構成別でみると、「参加したことがある」は、三世帯同居が 33.2%で最も高く、次いで夫婦二人住まい (28.3%)、夫婦に子どものみ (25.9%)となっている。

◇熊本市居住年数別

熊本市居住年数別でみると、「参加したことがある」は、30 年以上が 28.1%で最も高く、次いで 10～20 年未満 (26.0%)、20～30 年未満 (25.5%)となっている。

◇職業別

職業別でみると、「参加したことがある」は、農林漁業が 46.5%で最も高く、次いで公務員 (30.9%)、自営業 (30.8%)となっている。